



主役は子ども！ たのしく社会を学べる

8月31日(日)、鶴ヶ谷児童館で行われた「こどものまちin多賀城」。「こどものまち」では、子どもたちは仕事をして給料(そのまちだけで通用するお金)を手に入れ、そのお金を使って物を買ったり遊んだりする中で社会のしくみを学びます。この取り組みは、町内会や子ども会のイベ

ントでも活用できます。例えば、町内会の祭りで出店の1つを子どもたち中心で運営することで、子どもたちがお客さんではなく、地域の一員として活動するきっかけになります。ぜひ、みなさんも地域の中に「こどものまち」をつくってみたいいかがでしょうか。

写真提供：鶴ヶ谷児童館



6つの店の中から働く場所を選びます。ここは「なんでもショップ」。

銀行&ハローワーク。給料の受け取りや仕事の申し込みをします。

もらった給料で買い物したり遊んだり。こちらは射的。

こども議会も開かれ、まちの問題点などを話し合います。

たがさぼの貸出図書コーナーにも、関連する本を置いています。

こどもがまちをつくる「遊びの都市・ミニ・ミュンヘン」からのひろがり



ヒント from “たがさぼPress”

たがさぼのブログから地域づくりに役立つ記事をご紹介します

詳しくはブログへ

<http://blog.canpan.info/tagasapo/>

● **集え、ライダーたち！バイクでまちおこし** 2014年9月18日(木) 掲載
バイクでまちおこし？民間団体・行政・お店などが協力してライダーを迎える環境を整え、まちの活性化につなげている事例をご紹介します。

● **「こどものまちin多賀城」に行ってきました！** 2014年9月7日(日) 掲載
今年も多賀城に「こどものまち」が出現。子どもたちは仕事をしたり遊んだりして、楽しみながら多くのことを学びました。

● **デザインで社会を変える！NPO法人GIFT HOPE** 2014年8月30日(土) 掲載
デザインの力でNPOの活動を応援！支援先の団体をイメージしたTシャツを販売し、売り上げの一部が団体に寄付されます。

“たがさぼPress”とは？

たがさぼスタッフによるブログ。興味が湧いたらたがさぼPressへ！*ケータイ、スマホからもご覧いただけます。



たがさぼからのお知らせ

たがさぼが企画する「一歩ふみだすきっかけ」をご紹介します

「悠久の詩都の灯」ライト取付け体験

毎年冬に多賀城駅前で開催するイルミネーションイベント「悠久の詩都の灯」。イベントの企画などを通してまちを盛りあげる活動をしているT・A・P多賀城と一緒にみなさんも電球付けを体験してみませんか？

日にち	2014年11月1日(土)
時間	午前9時～午後1時
会場	JR仙石線多賀城駅南口
参加費	無料
持ち物	汚れてもよい服装・靴、軍手、タオル、飲み物
申込	可能であれば事前申込みをお願いします。(当日参加可)
問合せ	022-368-7745 (多賀城市市民活動サポートセンター)



災害から子どもの笑顔を守るには

8月27日(水)、多賀城市西部児童センターにて「ママの立場で考える防災・減災～子どもの笑顔をまもりたい(地震編)～」が行われました。20組以上の親子が参加し、普段の暮らしの中でできる備えを学びました。災害から子どもを守るために、個人で、子育て中の方たちで、そして地域で何ができるでしょうか。東日本大震災の実例から考えます。

まずは自分で 子どもを守れるのは自分だと思った

NPO法人日本防災士会・NPO法人防災士会みやぎ 佐藤美嶺さん

震災発生時、娘は生後わずか2週間。夫は里帰りのため不在であり、災害時に子どもを守れるのは自分しかないと感じました。今後も起こりうる災害を小さい子どもとともに、どのように乗り越えればいいのかと考えた時、防災の知識を身につけようと取得したのが防災士の資格でした。災害時に、家族が全員そろっているとは限りません。特に乳幼児と過ごす時間が多い母親は、子どもを守るための知識と備えが求められます。これからも自分と同じ立場の方々へ、日頃の備えの必要性を伝えていきたいと思います。

2014年
10月9日(木)
掲載

佐藤美嶺さんの活動の様子はたがさぽPressでも紹介しています。
「防災について考える・行動するヒント①」/「防災について考える・行動するヒント②」



防災士の
佐藤美嶺さん

自宅に置いておく非常用持ち出し備品。子どもを抱えながら持てる重さにしておくことがポイント。→



まわりとのつながりが子どもを守った

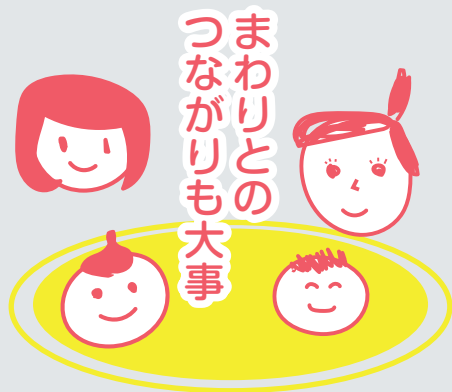
「震災から子どもを守りたい」という想いを持った母親たちが集まり、支援活動が生まれた事例もあります。震災直後、開いている店は少なく、子どもを抱えて長時間並んでも紙オムツやミルクが手に入らなかったり、支援物資として届いた衣服のサイズが合わなかったりしました。そこで、震災から8日目の3月19日、ひとりの母親が支援情報を共有できるウェブ上の掲示板を立ち上げました。掲示板がきっかけとなり、同じような境遇の母親たちが出会うことで、声を集め、乳幼児の入浴サービスや子どもが必要とする衣類・食べ物などの物資配布を行う活動へと広がっていきました。声をあげ、行動することで人や情報が集まり、自分の子どもだけでなく、多くの子どもたちに本当に必要とされる支援を届けることができたのです。

多様な声を地域防災に

大人、子ども、子育て世帯、高齢者、障がい者、外国人、持病のある方、ケガをしている方、妊娠中の方、地域には多様な人々が暮らしています。さまざまな立場の声を聴くことで、声をあげた個人に対応するだけでなく、各々の視点に立ったニーズを掘り起こすことにもつながります。防災訓練など地域で防災を考えると、多様な立場の住民が参加することで、誰もが安心できる地域がつくられるのです。



←佐藤さんが常に持ち歩いている防災グッズ。はぐれた時のための家族の写真や母子手帳のコピーなども入っています。毎日持ち歩けるよう、なるべくコンパクトにまとめるのがコツ。



「tag」には、多賀城 (tagajo) の頭3文字、みんながタグを組んで地域をつくる、多賀城に新しいタグ(価値)をつける、という意味が込められています。



「たがさぽ」ではツイッターもやっています。フォローお願いします！
@tagasapo



「たがさぽ」ホームページはこちら
<http://www.tagasapo.org/>